



あたらむープロジェクト

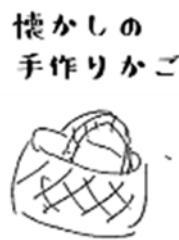
「あたらむー」 = もったいない

【プロジェクト内容】

現在、私たちは様々な便利なものに囲まれて暮らしています。しかし、使い捨てという利便性だけを重視したものの在り方や使い方、時間を優先し、ものを簡単に廃棄する暮らし方の価値観があたりまえのように定着し、様々な多くのものが簡単に捨てられ、直せるものも直さず捨てるような暮らし方が増えています。このような暮らし方は、資源を無駄に消費し、環境問題を引き起こす原因にもなっています。適切に処理さえすれば、ごみを排出しても良いというものではありません。ごみをなるべく出さないように暮らしを変えることが重要です。持続可能な社会の構築に向け、限りある資源を大切に、心豊かで丁寧な暮らしへと価値観を転換し、ごみの排出量を減らし、資源の無駄をなくす暮らしを実現するために、様々な取り組みを実施します。



持ち寄り市



【未来の暮らし】

この町では様々な暮らしの知恵を学べるワークショップが開催されています。料理の会もあり、無農薬で作られた安心野菜を使い、食べることが可能な部分は捨てずに全部食べようという企画で、栄養も効率的にとれる無駄のない健康スープを作ったりします。ワークショップに参加してから野菜の食べ方が変わりました。普段の生活で出る生ごみは、生ごみ処理機を活用し燃えるごみの処分量を少なくします。キエ一口やコンポスト等の生ごみ処理機で出来た土を各地で行われる、フリーマーケットや譲渡会(0円マーケット)に参加することで、まだ使える商品が循環し、日常生活で3R(リデュース=減らす・リユース=繰り返し使う・リサイクル=再利用、再資源化する)を意識でき、ごみとして処分することが少なくなりました。



【課題】

現在、和泊町における家庭から排出されるごみの分別は、ペットボトル、発泡スチロール、缶類、瓶、段ボール、粗大ごみを分別しており、それ以外はすべて燃えるごみとして回収し、沖永良部クリーンセンターで焼却されています。燃えるごみが増えれば、その分多くの燃料が必要になります。また、水分を多く含む生ごみは、さらに焼却に時間とエネルギーを要します。そして、焼却量が増えれば二酸化炭素の排出量も増し、地球温暖化の原因となります。焼却施設も処理量が多ければ傷みも加速します。ごみを燃やした後に出てる焼却灰や不燃性ごみは、沖永良部クリーンセンターに併設されている管理型最終処分場に埋め立てられますが、最終処分場にも限界があり、永遠に今の場所で処理し続けることはできません。ごみ焼却施設や最終処分場の長寿命化を図るうえでも、生ごみ処理機の普及率を上げることで、生ごみの適切な処理を考え、ごみ焼却量を減らす必要があるのです。

しかし、単に手間をかけ細かく分別しても、島内で処理しきれないものを島外にすべて輸送していくには、燃料を消費しコストも上がり、かえって環境負荷を与えることになります。リサイクルも、離島という条件下で、環境負荷や費用対効果とのバランスを見極める必要があります。フリーマーケットや譲渡会(0円マーケット)を定期開催できるよう、関係団体との連携を強化し、開催場所の確保や広報の充実を図っていくことが必要です。

また、食料や食材の無駄な廃棄も大きな環境問題の一つです。

【メリット】

- ・ 生ごみを適切に処分することで、燃えるごみとしての処分量が減り、ごみ焼却における燃料の使用量を削減します。焼却量が減ることで、焼却施設や最終処分場の延命につながります。
- ・ 二酸化炭素等温室効果ガスの排出量の削減し、環境負荷の低減に貢献します。
- ・ 適切な処理を検討するうえで、様々な角度から状況を分析し、過剰な分別などの手間を省きます。
- ・ 調理における生ごみの排出を減らす調理法等を活用することで、捨てていた野菜などを効率的に摂取し、無駄をなくし、家計にとって優しい暮らしにつながります。
- ・ ごみを出さない暮らしに価値転換することで、「必要以上に買わない」意識が醸成され、地球上の限りある資源の使用を抑えることにつながり、資源豊かな未来を子どもたちに継承することができます。

